

池田町森林整備計画実行管理推進チーム重点取組内容（令和4年度）

	個別目標	課題	解決策	今年度の取組結果	今後
カラマツ資源の平準化	齢級構成及び出材量の平準化に向けた計画管理体制の構築	簡易な長期資源予測手法の検討	森林経営計画分期ごとに齢級構成と出材量の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回会議で評価結果を共有</li> <li>・林業試験場より資源予測ツールの提供を受け、現在、試算の前提条件を検討中</li> <li>・UAVレーザ計測の見学会開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続して評価を実施</li> <li>・森林組合の新製材工場により、必要となる出材量が増加するため、資源予測の前提条件を再考</li> </ul>
	町内全域における一体的な森林管理の実現	現在、6個の森林経営計画が編成されており、主伐可能材積の流用が行われている実態がある	属人計画（町有林）と林班計画（東部・中部・西部）を統合 北東部の団地編成は継続して検討を行う	来年度の計画始期に向けて、団地数を削減し5計画（町長認定）を2計画に削減	2023年1～2月 経営計画の策定 2023年3月 経営計画の認定
	造林面積の確保（年間120ha）	伐採跡地における確実な再造林	森林所有者に金銭的な負担をかけない	豊かな森づくり推進事業における町単独上乗せ補助	
	出材量の確保（年間33,000～48,000m <sup>3</sup> ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・造林面積を上回る皆伐面積</li> <li>・公共事業予算額に左右されない間伐面積の確保</li> </ul>	森林所有者が皆伐ではなく間伐を選択する仕組みの構築	伐採率20%未満の間伐に対する町単独補助 公共補助に採択されにくい広葉樹間伐での利用が主体	<豊森実績見込み> 人工造林53.97ha 15,675千円
	路網整備・集約化施業の促進	路網の適正配置・維持管理に努める	作業道の維持管理に対する経済的負担の軽減	作業道補修に対する町単独補助については、令和4年度実績なし	<民有林管理推進事業予算> 間伐62.25ha 9,278千円
森林病虫獣害・風倒害に対するリスク管理手法の構築	風倒害に強い森づくりの推進	林業試験場作成の指針に対応した森林管理に対して支援	今年度より池田町民有林管理推進事業の上乗せ補助要件に追加したが、令和4年度は実績なし		
天然林の適正管理体制構築	製炭用原木の安定供給	天然林管理の担い手不足	様々な担い手による間伐の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町有林において育成木施業を実施したが、ミスナラは形質不良が多く、原木供給は出来なかった</li> </ul>	今後は、ミスナラは曲がりが少ない造材とする
	適正な天然林管理の提案	異齢・異樹種の多様な森林へ誘導するための育成木施業の提案	育成木施業の考え方・選木方法の普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近自然森づくりワークショップ（座学、現地）を実施</li> </ul>	一定数の人材育成に貢献してきたが、来年度以降も研修を実施する
生物多様性の保全に向けた取組	立枯れ木の適正な保全による多様な生物の生息場を確保	労働安全衛生上、伐採されることの多い立ち枯れ木等は生物多様性保全の観点では価値が高く、適正な形で残すことが望ましい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門家等によるセミナー、現地調査、ワークショップを通じた考え方の普及</li> <li>・森林環境譲与税を活用した保全策の検討</li> </ul>	池田町林業グループが事業主体となつて、講演会、ワークショップ、現地調査、モニターツアーを実施 具体的な保全策提案にはつながらなかったが、継続的に調査する体制整備が出来た	町有林や林業グループ分収林において、枯損木保全の具体的な手法を検討する
地域内エコシステムの構築	未利用材を活用した木質バイオマスボイラー導入	バイオマスエネルギーの需給状況 運用時の実施主体 導入に係る事業可能性の詳細検討	協議会の継続 協議会参画者の取り込み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域内エコシステムモデル構築事業」は不採択</li> <li>・協議会を1回開催し、民間主体の体制を構築するべく、協議会参画者にて検討を進めている</li> </ul>	実行管理推進チームとしての取組は一旦終了とする